

2020年1月31日
日本銀行佐賀事務所
日本銀行福岡支店



Bank of Japan Saga Office / Fukuoka Branch

佐賀県の金融経済概況

(2020年冬)

当資料は当事務所ホームページに掲載しています <http://www3.boj.or.jp/saga/>
<内容に関するお問い合わせ先> 日本銀行佐賀事務所 Tel : 0952-23-8165

1. 総論

○ 佐賀県の景気は、緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、緩やかに回復している。住宅投資は、緩やかに増加している。設備投資は、増加している。公共投資は、低水準ながら持ち直している。

こうした中で、生産は、横ばい圏内で推移している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は振れを伴いながらも持ち直している。

先行きについては、雇用・所得環境の持ち直しが個人消費の更なる回復に繋がること期待されるが、人手不足が企業活動などに及ぼす影響について注視していく必要がある。

<景気判断の前回との比較>

項目		基調判断	
		前回(2019年秋)	今回(2020年冬)
景気全体		緩やかに回復している。	緩やかに回復している。
需要項目	個人消費	消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、緩やかに回復している。	消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、緩やかに回復している。
	住宅投資	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。
	公共投資	低水準ながら持ち直している。	低水準ながら持ち直している。
	設備投資	増加している。	増加している。
生産		総じてみると弱めの動きとなっている。	横ばい圏内で推移している。
雇用・所得		労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は振れを伴いながらも持ち直している。	労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は振れを伴いながらも持ち直している。

2. 個人消費

- 個人消費は、消費税率引き上げなどの影響による振れを伴いつつも、緩やかに回復している。

▽個人消費関連の動向

非耐久消費財	百貨店・スーパー売上高	振れを伴いつつも横ばい圏内で推移している。
	コンビニエンスストア売上高	新商品投入効果や販売促進強化などから増加している。
耐久消費財	家電販売	振れを伴いつつも、白物家電やテレビを中心に買い替え需要が広がっていることから、増加している。
	乗用車新車登録台数 (含む軽自動車)	振れを伴いつつも緩やかに増加している。
サービス	旅行・観光	当地発の旅行は、国内向けは底堅く推移しているものの、海外向けは弱含んでいる。 観光は、日韓関係の悪化や豪雨の影響がみられているものの、総じてみると緩やかな増加が続いている。

3. 住宅投資

- 住宅投資は、緩やかに増加している。

4. 公共投資

- 公共投資は、低水準ながら持ち直している。

2019年10月～12月の公共工事請負金額は前年を上回った。

5. 設備投資

- 設備投資は、増加している。

法人企業景気予測調査（2019年10～12月期調査）における2019年度の設備投資は、製造業が前年を上回る一方、非製造業が前年を下回る計画となっている。

6. 生産

- 生産（鉱工業生産）は、横ばい圏内で推移している。

▽主要業種の生産動向

食 料 品	天候不順の影響が剥落するもとで緩やかに持ち直している。
化 学	国内向けを中心に堅調に推移している。
電 気 機 械	堅調に推移している。
電子部品・デバイス	弱含んでいる。

7. 雇用・所得

- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得は振れを伴いながらも持ち直している。

有効求人倍率は、高水準ながら足もと若干低下している（11月：1.27倍）。10月の雇用者所得総額¹は、一人当たり現金給与総額の増加を主因に前年を上回った（10月：＋3.4％）。

8. 物価

- 12月の消費者物価（佐賀市、生鮮食品を除く総合）は、前年を上回った（12月：＋0.8％）。

9. 金融²

- 12月の預金残高をみると、個人預金や法人預金を中心に前年を上回った（12月：＋4.0％）。
- 12月の貸出残高をみると、前年を下回った（12月：▲0.4％）。

以 上

1 雇用者所得総額は、「常用労働者数×一人当たり現金給与総額（名目）＜ともに事業所規模5人以上＞」で算出。

2 預金・貸出残高の前年比は、国内銀行（ゆうちょ銀行等を除く）の佐賀県内にある店舗の残高合計から算出。残高合計については、日本銀行福岡支店 HP「地域の時系列データ」（佐賀県）参照。